

INTERVIEW

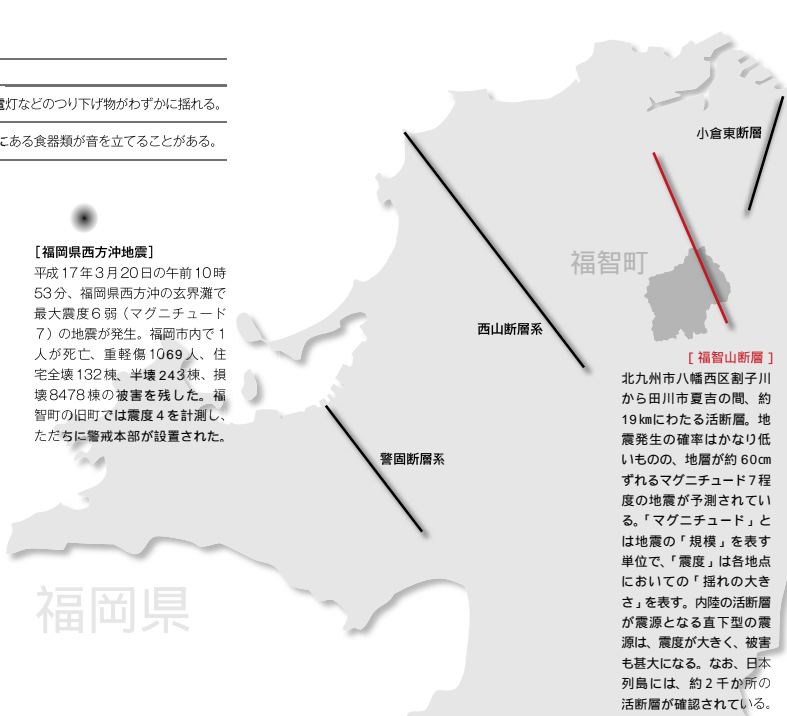


田川地区消防署 森 哲也 消防司令補

絶対にないとは言えない 福智山断層による地震は、近い将来に発生する可能性は極めて少ないのですが「絶対にない」とも言い切れません。田川地区消防本部では大規模地震に対するマニュアルも作成済みです。災害は突然起きるもの。万一に備え、ご自身やご家族の身を守る手段を確認しておいてください。

Table with 2 columns: Magnitude (震度) and Phenomena/Damage Status (現象や被害の発生状況). Rows range from 2 to 7, including specific intensity levels like 1E町での震度, 5弱, 5強, 6弱, 6強, and 阪神淡路の震度.

【福岡県西方沖地震】平成17年3月20日の午前10時53分、福岡県西方沖の玄界灘で最大震度6弱（マグニチュード7）の地震が発生。福岡市内で1人が死亡、重軽傷1069人、住宅全壊132棟、半壊243棟、損壊8478棟の被害を残した。福智町の旧町では震度4を計測し、ただちに警戒本部が設置された。



【福智山断層】北九州市八幡西区割子川から田川市夏吉の間、約19kmにわたる活断層。地震発生率はかなり低いものの、地層が約60cmずれるマグニチュード7程度の地震が予測されている。「マグニチュード」とは地震の「規模」を表す単位で、「震度」は各地点においての「揺れの大きさ」を表す。内陸の活断層が震源となる直下型の震源は、震度が大きく、被害も甚大になる。なお、日本列島には、約2千か所の活断層が確認されている。

阪神淡路大震災、新潟中越地震、福岡西方沖地震…。昔から「地震は起きない」と信じられていた場所が次々と被害に遭っています。地震列島日本で、もはや震災は、どこに住んでいても人ごととはいえない状況です。実際に、この町には、「福智山断層」が走っています。

地 震 福岡西方沖地震 もはや地震の空白地神話はない

第1章 災にしない教訓

INTERVIEW



田川地区消防署 丸山 隆徳 消防士長

日ごろの防災意識がカギ 阪神・淡路大震災の直後、神戸市灘区で救援作業を行いました。被災者はみな予想もなかった一瞬の惨事に、途方に暮れた様子でした。防災意識の向上は、日ごろ災害時の想定をどれだけできるかにかかってきます。一人ひとりの意識改革が地域や町の防災力向上に不可欠だと思います。

死なないための備え 地震の揺れで人が死ぬことはありません。建物の倒壊など、揺れによる影響で命を失います。ですから、その時に適切な対策や行動がとれば、命をつなぐ確率も上がります。阪神・淡路での犠牲者は、建物崩壊などによる圧死が83・3%で、亡くなった人の80・5%が最初の15分間に命を落としました。その亡くなった人が、もし、今話せたとしたら、「震災の時には非常持ち出し品が大切」などと言ったでしょうか。きっと、「家の耐震診断を」とか「家具や家電を固定しなさい」



地震の事故防止には家具の固定が有効。就寝位置は家具の高さ分だけ離れるが、家具の側面にした方が安全です。出入口付近に家具を置かず避難路を確保します。

近 年、大地震が国内の「地震空白地」と呼ばれる場所で発生しています。平成17年3月20日に起きた福岡県西方沖地震（最大震度6弱）では、福智町の旧町で前例のない震度4を記録。初めて体感した「揺れ」に多くの住民が恐怖を覚え、ここが地震とは無縁でないことを実感しました。さらに、近年の調査で町内を横断する活断層「福智山断層」について明らかになっていきます。平成13年の阪神・淡路大震災、16年の新潟中越地震はいずれも内陸の「活断層」が発生源でした。この福智山断層による地震の確率は低いものの、いったん起きた場合、マグニチュード7程度の震度が予測されています。

とアドバイスするはずですが、防災グッズが役に立つのは、死なないことが大前提です。地震で圧死しない備えが大切です。阪神・淡路大震災では約13万戸の家屋が倒壊しましたが、建物が崩壊すれば机もベンチヤンコになります。そのことを考えれば、いつまでも机の下にいるより、一刻も早く戸外に脱出した方がいいと言えます。家庭は揺れを繰り返して最後にドサツとつぶれます。家が傾けばドアや窓は開かなくなるので、まず揺れを感じたら避難経路を確保したほうが賢明です。また、たとえ建物が揺れに耐えても大地震ではテレビが飛び、タンスが倒れてきます。さらに、家具の転倒や散乱が行く手をばばみ、逃げ遅れや大けがにつながります。事故を防ぎ、スムーズに避難するために、家具や家電の固定と適切な配置を心がけてください。



死者6千403人、全壊・全焼などの家屋被害24万8千412棟という戦後最大規模の被害をもたらした阪神・淡路大震災。このような活断層による直下型の地震では初期微動（カタカタとした縦揺れ）と主要動（ユサユサとした横揺れ）があり、海溝型の地震の場合、小さな揺れの後に大きな揺れが来るという特徴がある。震源からの距離が遠いほど、この時間差が大きいです。